

Ⅱ 活動目的と意義

A 活動目的

本活動は、いわき市に避難した浪江町民を対象に健康調査と支援を行うことである。いわき市に避難された浪江町民の方々は、借り上げ住宅での生活を余儀なくされている。この借り上げ住宅での生活により、さまざまな健康問題が生じる可能性があるため、これを早期に把握し、健康被害を最小限に抑えるための保健医療サービスにつなげていく必要がある。2013年以降、(4)を追加し、以下のことを目的にした。

- (1) いわき市在住の全浪江町民を対象に、各家庭を訪問し聞き取りによる健康調査を行うことで、町民個々の健康状態を把握する。調査の結果、保健医療サービスが必要と判断される場合は、浪江町の保健医療行政と連携しながら、医療機関や保健サービスと連携をとり、住民の健康問題への支援につなげる。
- (2) アンケートを実施し浪江町民の健康状態と支援ニーズを把握する。
- (3) 各家庭を訪問し健康状態に関する聞き取りを行うが、その際、単に健康状態を調査するという態度ではなく、町民の方々の生活や経験に耳を傾け、「語りを聞く」という態度を重視する。それにより、ナラティブ・アプローチに基づく「語りを聞くケア」の実践を行う。
- (4) 健康調査結果の分析を行い、各種サロンを企画し運営する。
- (5) 支援ニーズに基づいた保健医療サービスの在り方やコミュニティ形成の在り方を検討する。

B 活動の意義

本活動は、浪江町と日本赤十字社及び日本赤十字看護大学との連携による健康調査支援活動であり、上記に挙げた目的を達成することで、浪江町民の方々の健康状態の悪化防止、健康維持に寄与できるという意義を有するが、それだけにとどまらず以下のような意義を持つと考える。

- (1) 個別訪問をすることで、住民一人ひとりの健康状態を具体的に把握し、早期の健康支援に繋げ健康状態の悪化を防ぐことができる。また医療支援が必要な人に対しては、継続的に医療を受けられるようにできる。それにより浪江町民の健康問題の把握と早期の対応に寄与できる。
- (2) 個々の住民の語りを聞くことで、不安やストレスの軽減につながる。同時に、これからの生活を考えられるような心理的支援につながる。
- (3) この活動を通して、参加した看護師個々が、災害中長期におけるケアを検討することができる。また、継続的な支援を通し、避難生活をしている被災者の課題を明らかにすることができる。これらから、災害看護における教育および、スキルや態度を明らかにする一助とすることができる。
- (4) 赤十字としての災害発生後の中長期支援の在り方を検討するための資料を提供することができる。